

麦の収量・品質向上のため、適切な管理を行いましょ

1 気象概況

過去5ヶ年平均値（平年）と比較して、平均気温は3月中旬はやや高温で推移しましたが、3月下旬は低温で推移しています。また、降水量は3月中下旬ともに少雨で推移しています。（図1）。

なお、気象庁の1か月予報（3/21～4/20）では、気温は平年より高い、降水量は平年並みか多くなる見込みとされています（表1）。

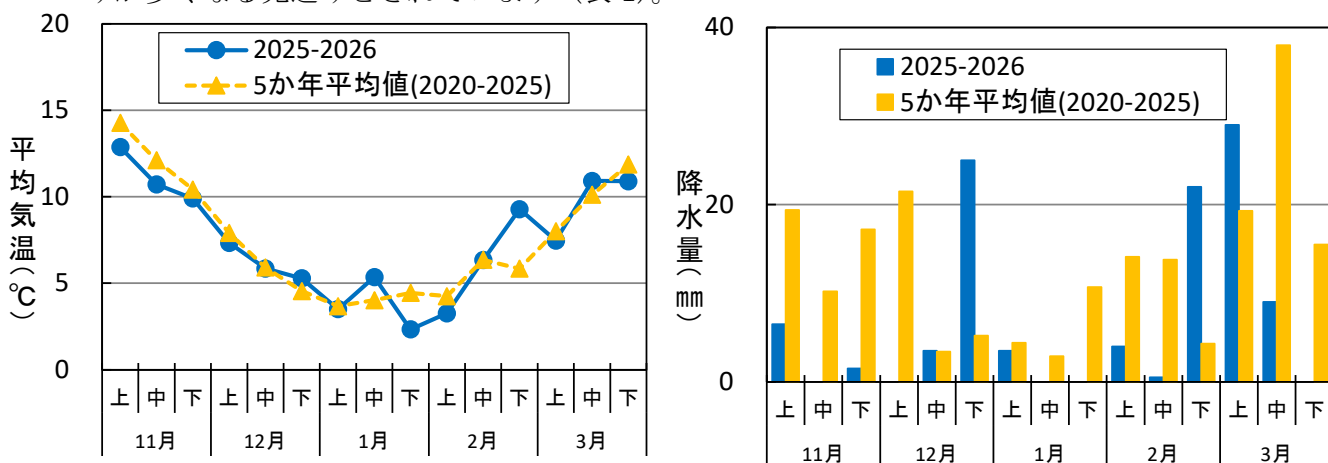


図1：11月上旬から3月下旬までの気象状況（左：平均気温、右：降水量）

表1 東日本太平洋側における向こう1か月(3/21～4/20)の気象予報（％）

	低い（少ない）	平年並み	高い（多い）	備考
気温	10	10	80	高い見込み
降水量	20	20	40	平年並か多い見込み

気象庁HPより引用

2 生育概況（表2）

3月中下旬は少雨で推移したため、麦の生育は少し落ち着いています。また、今回の調査にて、「さとのそら」と「ゆめかおり」も追肥の時期となる茎立期を迎えました。

表2 調査ほ場の生育状況（3/23 調査）

品種	調査地点	播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	SPAD	出穂期予測	
						平年並	+2℃
カシマゴール	古河市（旧総和）	11/12	41.2	985	36.9	4/11	4/8
さとのそら	古河市（旧総和）	11/29	24.6	527	39.2	4/19	4/16
ゆめかおり	境町	11/25	30.9	715	48.3	4/17	4/13



3 今後の栽培管理

・ 茎立期追肥（小麦）

少雨の影響で茎数が少ないほ場が見受けられます。茎立期追肥により粒の充実を高めつつ茎数の確保に努め、収量増を狙いましょう。追肥量は、生育量や地力に応じて窒素成分で2～4kg/10a程度が目安です。

・ ソバの防除

前作ソバのこぼれ種が出芽し始めています。ソバに有効な除草剤として「アクチノールB乳剤（令和8年3月18日現在登録確認）」が挙げられますが、販売価格の高騰に伴い、これまでのような使用が難しくなっています。現状では有効な代替手段が無いので、抜き取りによりソバの混入リスク低減に努めましょう。

・ 赤かび病防除

近年、赤かび病の発生が多い年が続いています。感染した粒が生産物に混入すると、等級低下につながり、混入量が多い場合には出荷停止となる可能性もあります。右図を参考に適期に防除を行いましょう（六条大麦：「カシマゴール」小麦：「さとのそら」「ゆめかおり」）。

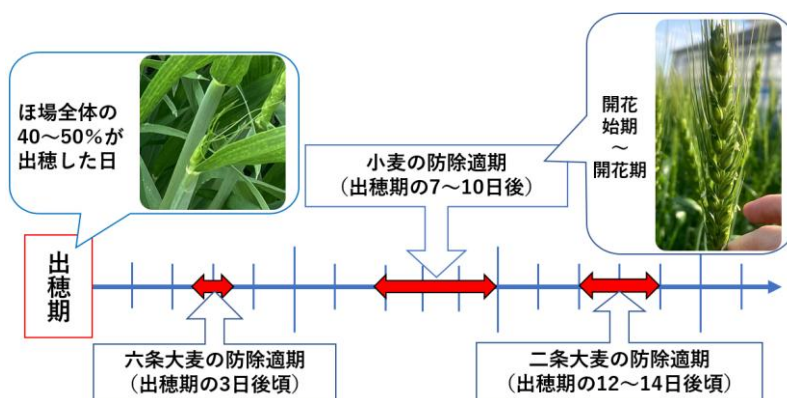


図 赤かび病防除適期（県農業研究所病虫研究室提供）

○今後の栽培管理についてご質問があれば普及センターまでご連絡ください（TEL：0297-34-2134）。